

安全データシート (SDS)

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 アスキャッチGS
整理番号 SDS No. 96-06
用途 石綿封じ込め作業、石綿除去作業
会社名 : クリアライト工業株式会社
住所 : 岐阜県関市山田 1539-3
担当部署 : 技術部
電話 : 0575-27-3051 FAX : 0575-27-3053
作成年月日 : 2012年 8月 1日 改定年月日: 2015年 9月 1日

2. 危険有害性の要約

<GHS 分類>

物理化学的危険性

全ての項目において「分類対象外」もしくは「区分外」「分類できない」である。

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	区分外
急性毒性 (経皮)	分類できない
急性毒性 (吸入、蒸気)	分類できない
急性毒性 (吸入、粉塵、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 (急性)	分類できない
水生環境有害性 (慢性)	分類できない

ラベル表示

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: 皮膚刺激、強い眼刺激

<注意書き>

【安全対策】

- すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

- 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
- 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

- 容器は蓋をするとともに、直射日光、高温、高湿度を避け、火災、腐食、盗難のおそれの無い、5℃以下にならない場所で保管すること
- 部外者や子供の出入りしないところに保管すること

【廃棄】

- 産業廃棄物として産業廃棄物処理業者に委託して処理すること
- 排水溝、地面、河川等に流さないこと

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

含有成分及び含有量

成分名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法 No.
金属珪酸塩	非公開	非公開	登録あり
界面活性剤	非公開	非公開	非公開
水	残量	7732-18-5	—

毒劇物法 : 非該当

消防法 : 非該当

P R T R 法 : 非該当

4. 応急処置

- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な微温湯又は水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合には、医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染した衣類、靴などを速やかに脱ぐこと。アルカリ性の製品なので付着した部分は石鹼などを用いなくて、微温湯又は水を流しながら、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続けること
- 飲み込んだ場合 : 口に含んだ場合は直ぐに口をすすぐこと。飲み込んだ場合は、水で口内を洗う(意識がある場合のみ) こと。ただし、無理には吐かせないこと。

吸入した場合	・ 空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、なお気分の悪い場合は速やかに医師の手当てを受ける。
予想される急性症状	吸入 : 灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛 皮膚 : 発赤、痛み 眼 : 痛み、発赤、熱傷 経口摂取 : 腹痛、灼熱感、ショック又は虚脱
医師に対する特別注意事項	・ 直ちに医師の診断を受け、この容器のラベルに記載された注意事項又は MSDS を示すこと

5. 火災時の処置

消火剤	・ この物質は不燃性である。周辺火災に適応した消火剤をしようする。
特有の危険有害性	・ 加熱により容器が爆発する恐れがある ・ 火災によって刺激性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する
消火を行うものの保護	・ 消火作業の際は適切な防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	・ 大量に漏出した場合、直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
保護具及び緊急時措置	・ 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、滑りやすいのでその中を歩いたりしない。
環境に対する注意事項	・ 環境への放出を避けること。河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないように注意する。アルカリ性であり、海水と反応するため、水質汚濁の原因となる。
回収・中和	・ 汚染区域を希酸（希塩酸、希硫酸等）で中和し、固形物を除き、大量の水で希釈して洗い流す。
封じ込め及び浄化方法	・ 防水シート等で表面を覆い、飛散防止を図り回収する。漏洩物を掃き集めてから容器に回収し、跡で廃棄処理をする。危険でなければ漏れを止める。
二次災害防止策	・ 情報なし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	・ 吸い込んだり、眼・皮膚・衣服等に触れないよう、保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴等を着用する。 ・ 作業は換気のよい場所で行う。 ・ 容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、引きずったりしないこと。 ・ 取扱後は身体・手・口・眼・顔をよく洗う。作業着に付着した場合は着替える。
保管	・ 容器は直射日光を避け、密閉して冷暗所に保管する。

8. 暴露防止措置

管理濃度	: 知見なし
許容濃度	: 知見なし

- 設備対策 : 高熱取扱いで、工程で粉塵、ヒューム、ミスとが発生するときは、簡易装置を設置する。貯蔵又は取り扱う作業場には汚染箇所を洗浄できる水洗設備を確保すること。
- 保護具 : 必要に応じて保護メガネ・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴・保護マスク等を着用すること
- 衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと

9. 物理／化学的性質

物理的携帯

- 形状・色 : 透明液体
- 臭い : 無臭
- pH : 11.0±0.5
- 比重 : 1.14±0.1

化学的状態が変化する特定の温度／温度範囲

- 融点 : 0℃以下（水として）
- 沸点 : 100℃（水として）
- 引火点 : 不燃性液体
- 爆発範囲 : データなし
- 溶解度 : 水に可溶
- 自然発火温度 : データなし

10. 安定性・反応性

- 安定性 : 通常の取扱い条件においては安定である。
- 危険有害可能性 : 情報なし
- 避けるべき条件 : 酸と反応してゲルを生成したり、発熱する。アンモニウム塩と反応して、アンモニアガスを発生する。アルミニウム、スズ、鉛、亜鉛反応して引火性／爆発性気体（水素）が発生する。重金属、アルカリ土類金属の各塩として金属珪酸塩の水和物沈殿を生じる。亜鉛、アルミニウム当は瀧食にり表面腐食する。
- 危険有害な分解生成物 : 水素ガス

11. 有害情報

- 急性毒性（経口） : 経口 区分4（300<区分4≤2,000）
ラット 1600mg/kg
- 急性毒性（経皮） : データなし
- 急性毒性（吸入：ガス） : データなし
- 急性毒性（吸入：粉じん・ミスト） : データなし
- 皮膚腐食性・刺激性 : 経験上、GHS区分に対比した場合区分2に該当する
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 経験上、GHS区分に対比した場合区分2Aに該当する
- 呼吸器感作性 : データなし
- 皮膚感作性 : データなし
- 生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	: データなし
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	: データなし
吸引力呼吸器有害性	: データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境急性有害性	: 区分外である (> 100 (mg/L))
水生環境慢性有害性	: アルカリ性であることが毒性の原因であると考えられるが、環境水中では緩衝作用により、毒性影響が緩和されるため「区分外」とした。

残留・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等により処理し、危険有害性のレベルを低い状態にする。下水道には廃棄しないこと。廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
中和法（少量の場合）	: 大量の水で希薄溶液とし、この希薄溶液を攪拌しながら、発熱に注意して希酸（希塩酸、希硫酸等）を添加し、pHを中性に調整する。生成した不溶性固体と液体を分離し、固体は廃棄用として包装。水溶液は大量の水と一緒に排出する。
容器及び包装	: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って、適切に処分する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	: IMO（国際海事機関）の規定に従う
UN.No	: 非該当
Proper Shipping Name	: 非該当
Class, Packing Group	: 非該当
Marine Pollutant	: category Y

航空規制情報

UN.No	: 非該当
Proper Shipping Name	: 非該当
Class, Packing Group	: 非該当

国内規制

道路法	: 道路法の規定に従う
-----	-------------

船舶安全法	:	船舶安全法の規定に従う
航空法	:	航空法の規定に従う
特別の安全対策	:	・運搬に関しては容器に漏れない事を確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。液温が下がりすぎて凝結する場合は温めること。食料品や飼料と一緒に輸送してはならない

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	:	非該当
水質汚濁防止法	:	水素イオン濃度の項目
毒物及び劇物取締法	:	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	:	非該当(2009年10月1日改正前後共に)
消防法	:	非該当
海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律	:	有害液体物質(Y類)船舶による
船舶による危険物の運送基準等を定める国事	:	汚染上の危険

1 6. その他(引用文献等)

- 1) “法規制検索ガイドブック” 化学工業日報(1986)
- 2) “11691の化学商品” 化学工業日報(1991)
- 3) “米国 OSHA 危険有害性の周知基準-規則と危険有害性化学物質リスト(第4版)”
- 4) 日本産業衛生学会 “許容濃度の勧告” 産業医学 33 卷(1991)
- 5) 通商産業省基礎産業局化学品安全課監修 “化審法 化学物質” 化学工業日報社(1991)
- 6) 労働省安全衛生部化学物質調査課編 “労働安全衛生法 化学物質総覧 下” 中央労働災害防止協会
- 7) “化学品法令集” 化学工業日報社(1991)
- 8) 日本化学会編 “改訂3版 化学便覧 基礎編” 丸善(1985)

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。